

## 外環の計画のたたき台説明会

開催日	平成 13 年 5 月 28 日 (月)	開始時間 19:00 終了時間 21:00
会場名	調布市立第 8 中学校	
出席者人数	住民側 約 350 人 行政側 国土交通省 関東地方整備局 川崎国道工事事務所 笹森事務所長、伊藤調査第一課長 東京都 都市計画局 成田外かく環状道路担当部長、石橋外かく環状道路担当課長	
配布物	たたき台パンフレット、説明会コメントカード、お知らせ用紙	
議事次第	1. 開会 2. 説明者紹介 3. 挨拶 4. 説明 (スライド) 5. 補足説明 6. 質疑応答	

### 議 事 録

: 質問 : 意見 : 回答

#### 男性 (三鷹市中原 1 丁目):

たたき台で示された外環設置の場所は最終決定されたものではないという理解でよいのか。少子高齢化が進展し高齢者が増加することが予想されるため、福祉厚生面で配慮できないか。公共交通と連携した計画とすべきであり、外環整備に併せて、地下鉄も併設する計画に修正したらどうか。

昭和 41 年の都市計画を基本に考えていくが、今回地下にするには若干区域の変更があるかもしれない。その意味でまだ決まったものではない。

高齢者福祉面の配慮という点では、走行性の面では構造を工夫するなどしていきたい。また、外環地上部の街づくりでいろいろな工夫ができるのではないかと考えている。

外環を地下化すると有効に使える空間が生じるので、意見を伺いながら関係機関と協力して検討していきたい。

#### 女性 (三鷹市中原 1 丁目):

外環整備のメリットだけでなく、デメリットも明確にすべきである。

長い間凍結してきた計画を白紙撤回してほしい。

デメリットは環境面、特に換気設備が問題になると思う。これについてはいろいろな新技術の活用を検討していきたい。また、どうしても地上に出る部分は騒音や振動が問題になる。さらに地下水も問題になる。これらは現地調査して対応していきたい。さらに道路面だけでなく、自動車の低公害化も考える。

貴重なご意見として承る。

#### 男性 (調布市緑ヶ丘 1 丁目):

質問でなく意見として言う。外環が有料道路であるならば、出費を敬遠する自動車は環状 7 号線、8 号線に流入してくるのではないか。

質問でなく意見として言う。現在の国の厳しい財政状況やそれがもたらす国民の生活に対する不安を考慮した上で、外環整備の費用とそれに対する考え方を明確にしてほしい。

貴重なご意見として承る。

#### 男性 (三鷹市中原 1 丁目):

どこに原点をおくのかについて議論すべきである。

原点というのは必要性から議論をはじめるということである。

#### 男性 (調布市緑ヶ丘):

国土交通大臣や都知事が原点に立ち戻って必要性を論じようといっているのに、説明会で都が地上部について言及するのは大臣や知事を無視しているのではないか。

東京都は、地元の街づくりや福祉活動について都民のみなさまといろいろな相談しながら進めるという立場から原点に立ち戻り、高速ネットワークが必要であると考え、その必要性から議論をしている。

**男性（調布市仙川）:**

自分の所有している土地は計画線にかかっており、個人的に大きな影響がある。公共事業のためだから協力するつもりだが、30年間進展しなかったことは残念である。この機に進めてほしい。貴重なご意見として承る。

**男性（調布市緑ヶ丘）:**

事業の予算が決まっていない段階で事業を始める気なのか。

事業主体はどこになるのか。

予算も決まっていない状態で事業化すると、また国の借金が増えるのではないか。

現在は、事業を実施するかまだ決定していない状況である。

通常の場合は、国が事業主体で、国から施工命令によりJH（日本道路公団）が施工する。

今後、費用対効果の検討により議論していきたい。

**男性（三鷹市中原1丁目）:**

自動車を利用する人、しない人、双方の利便性を確保するために、この地域に道路を整備するのであれば、同様に鉄道も整備するのがよい。

説明ではこのたたき台で計画決定していないと言っていたが、現在の計画線内にある建物は建築制限を受けて迷惑している。一度計画決定したのであれば、早く事業化することが迷惑にこたえることになる。

環状7号線、8号線沿線の住民が排気ガスで迷惑をしていることを考えれば、(同路線の混雑を解消する)外環整備はよい。外環整備に賛成である。

貴重なご意見として承る。

**男性（三鷹市中原1丁目）:**

住民の意見が反対多数であれば白紙撤回となるのか。

たたき台パンフや今のスライドは大まかすぎて、意見が言えない。

1兆6千億円超も使うのであれば、地下鉄を造るというのも選択肢の一つ。外環を整備しないという選択肢があるのか。見直す気はあるのか。

白紙撤回という言い方をするのはなかなか難しい。必要性から議論したい。

たたき台はあくまでも地下化した場合のイメージである。それについて幅広いご意見をいただきたい。今後、必要性を含め議論し、議論が進んだ段階で具体案を提示していきたい。

外環を整備しないという選択肢はあるのかということについて、ご意見として承っておく。国として外環は必要だと考えている。

**男性（三鷹市中原1丁目）:**

たたき台は、イメージであるとのことだが、地域によっては不安を与える。

特定の地域に特化し、補償金の問題など細かい点について話し合う機会は設けられるのか。

地域に特化した小規模かつ詳細な説明会を行う際は、どのくらい詳細な質問がでけると想定しているのか。

地域の状況にあわせて、小さな単位で説明会、個別の相談を行っていききたい。これを7月いっぱいまで行いたい。

小さな説明会の場合、個々の質問が出てくると考えており、できるだけご質問・ご要望にお答えしようと考えている。

**男性（三鷹市中原1丁目）:**

今度こそ本当に整備するのか。するのであれば、着工年次や供用年次を教えてください。

都市計画変更手続きに3～4年、着工から完成まで約10年ほどかかる。今はその前段階であり、どれくらいかかるかは不確定である。

**男性：**

必要性のあり、なしについて議論することに絞ったほうがよいのではないか。また、行政を仲介しないで、市民で議論するべきである。  
ご意見として承る。

**男性（三鷹市中原1丁目）：**

必要性から議論するのに現都市計画決定ルートは関係ないのではないか。  
現都市計画決定ルートの調布市部分が本当に高架だったのが正確な情報を教えてほしい。  
個別相談コーナーの時間が不適當である。これでは会社づとめの人間がいくことができない。  
現都市計画決定ルート上には私権の制限をかけており、その30年以上の重みは大きいものがあると認識している。  
現在の都市計画決定では高架構造である。  
土、日曜日に個別相談説明会をして欲しいという意見があれば検討していきたい。

**男性（調布市東つつじヶ丘）：**

たたき台より先に計画の必要性を示すべきであり、その意味では「計画の必要性の議論から始める」という説明と順序が全く逆ではないか。計画の必要性をもっと示すべきである。  
原点とはいつの時点か明確に説明してほしい。  
議論をするにも地下のイメージが無いと議論しづらいというご指摘をいただき、たたき台を提示したものである。従って、まずはこれをもとに議論を進めたい。また、議論の進め方についても意見があればいただきたい。  
原点とは必要性の議論をはじめるといふ今の段階と考えている。

**70代男性：**

原点や必要性の議論を行っているといつまで経っても整備が進まない。私権制限を受けて迷惑を受けている人をどうするのか。100%反対・賛成という事態はありえない。最大多数の最大幸福を考え、早く整備を進めてほしい。  
貴重なご意見として承る。

**男性（調布市東つつじヶ丘）：**

昭和41年時の計画決定の際に、国道20号線のインターチェンジはあったのか。  
都市計画図にはインターチェンジが描かれていないのか。  
昭和41年に計画決定されているが、今回は設置の有無を含めて検討する。  
都市計画図の中に示されている。

**男性（調布市緑ヶ丘）：**

今回提示されたたたき台は、もう少し具体的にすべきである。  
たたき台のジャンクションは素人には分かりにくい。ジャンクションがイメージできる具体的な図が必要である。  
まずはたたき台を基に、議論が進んだ段階でもう少し具体的なものを提示する。  
計画が具体化した段階ではきちんと図面を提示したい。

**男性（調布市つつじヶ丘1丁目）：**

外環が出来ると予想される何十年後かのビジョンはどうなって、どう必要性を考えているのか。  
必要性については20年先といった将来のことも考えている。

**男性：**

詳細な需要予測をもとに具体的な案を作成し、市民の協力をあおぐべきである。情報を小出しにしていては、妥協点が見つからない。

今後、需要予測をはじめ情報はいろいろな形で提示し、みなさんと共有していきたい。

**男性（三鷹市中原1丁目）:**

説明会には行政の考えをはっきりと回答ができる、責任ある回答のできる人を連れてきてほしい。  
貴重なご意見として承る。

**男性（調布市多摩川）:**

議論が発散するのを防ぐために、質疑応答の際には項目別に絞るなどわかりやすくしてはどうか。  
必要性について行政側の主張を聞きたい。ついては、次回以降は主張を用意してほしい。

大深度地下を利用すれば現在のルートを全く違うルートに変更することが可能なのではないか。  
今回の説明会は一般的なやり方だと思う。提案された進め方も一つの課題として今後研究したい。  
外環は必要だという認識で説明している。

大深度地下については、インターチェンジやジャンクションのつながりで開削区間の影響が大きくなるなど、大深度地下の適用には色々な制約があると考えている。